

平成 28 年度 大阪府立箕面東高等学校 第 3 回学校協議会 報告

【日時】：平成 29 年 2 月 13 日（月）17 時 00 分～18 時 30 分

【場所】：校長室

【出席者】協議会委員：伊藤 義輝（大阪成蹊大学）、小山 正辰（元府立高校校長、現森ノ宮医療大学）、里村 潔（箕面第 6 中学校校長）

須貝 昭子（NPO 法人「市民活動フォーラムみのお」）、

篠崎 朗（本校同窓会長）、三島 義博（本校 P T A 会長）、

校長：國守 正二（校長）

学校事務局：鎌田 啓（教頭）貴治 康夫（教頭）、今西 隆司（事務長）

川上 慶次郎（首席）、野田 恒三（ガイダンス部主任）

【説明・報告事項】

1. 今年度の進路状況（事務局）

CS10 期生の 2 月 3 日時点での進路決定状況について、昨年度より大学・短大進学が増えている（56 名、昨年は 40 数名）。大学・専門学校は入りやすくなってきていることもあるが、オープンキャンパスに参加したり、模試を受けることによって生徒が意欲的になっているようだ。

【協議事項】

平成 28 年度の学校教育活動についてスライドショー（校長）

1. 平成 2 8 年度・学校経営計画および学校評価（校長）

本年度の取組内容及び自己評価

1. 「わかる喜び」「学ぶ意欲」を喚起する授業の確立

ICT 機器の活用は徐々に進んでいる。エンパワメントタイム「総合」について校内初任者研修の実施（1 月 19 日）および全教員で研究協議（2 月 2 日）。

2. キャリア教育の充実

エンパワメントタイムを活用した進路別懇談会の実施（7 月 15 日）。進路選択にあたっては中小企業の存在をもっと身近に感じてほしいとの意図を持って実施した。

デュアルシステムについては出陣式（4 月 19 日）から後期の生徒発表会（2 月 8 日）まで順調に進み、参加生徒の満足度も高かった。

3. 生徒指導と相談体制

不登校率は 27 年度より下がっており、校内でのサード・プレイス（居場所）が大切である。

新入生宿泊研修（4月12日）は規範意識の重要性を生徒に納得させる意味からも有益である。

4. 学校行事と部活動

1, 2年の体育大会を実施（6月16日）し、次年度は3学年で実施予定である。写真部の作品は次年度全国大会への出展が決まった。また、サッカー部や男子バスケットボール部は3,4回戦まで進出する力をつけた。

5. エンパワメントスクールの認知度

さまざまな機会を活用してエンパワメントスクールの認知度を上げている。

HP充実のため、すでに記事を120件アップした。

みのひが展（地域への発信）、公開授業（次年度は日曜日開催予定）、ユニークな授業の取り組み

1年次の家庭基礎「弁当の日」、保育所の園児と調理をする「子どもクッキング」、地域でご飯（子ども食堂）、「生命を考える」、「エネルギー問題を考える」、「身体表現入門」、

「映像表現入門」、学外連携講座、「声優実技」、「食文化」。

質疑応答・意見

「中小企業の社長はどういうルートで招いたか」→

「前校長が招いた。今年度は1年次17名、2年次4名に来ていただき、地域別にグループ討論を実施した」（校長）

「デュアル発表会の出席者について」→

「基本的には生徒の実習先から来ていただいている。生徒は2年次生が45名、1年次生は来年のデュアル受講希望者である。また保護者にも呼びかけた。」（事務局）

「箕面6中では2年で職業体験を実施している。一人一職種として生徒自ら体験先を開拓させる。相手先に電話もかけさせるが、ハローワークから講師を招いて電話対応の授業がある。」（協議委員）

「SJ（スーパージャンプ）の講座はどのように実施しているのか。」→

「学びなおしの次の段階の生徒がSJプランを受講する。放課後と長期休暇を最大限活用しながら、意欲的な生徒を対象に学習させている。」（校長）

「みのお市民活動センターでも学習指導に力を入れているNPOがある。そこでは学習能力の高い者が学習につまづいている者を教えるという方法を行っている。」（協議委員）

「先生が生徒を教えるというのではなく、グループで教えあったり、いちばんいいのは生徒自身が友達に教えることによって自らも学ぶことができる。」（校長）

「みのひがレターは誰向けか」→ 「受験を控えた中学校3年生向けである。生徒向けの工夫としてはやわらかさが大事だ。」（事務局）

「クリーンアップ作戦ではどこを清掃しているのか。」→

「中庭、側溝、中庭のタイルなど、 普段できていないところを清掃した。」(校長)

「PTA も一緒に手伝いながらやっている」(協議委員)

「清掃によって教育環境を整えることが大事だと思う。学校へ来るとまず玄関を見る。整理整頓で頭の働きもよくなり相乗効果がある。同窓会も一緒になって皆で清掃できたらいいと思う。」(協議委員)

2. 学校教育自己診断アンケート結果 (事務局)

資料説明および簡単な分析報告。

アンケート全体を通して保護者の回収数が低かった。

「学校に対する意識」の分析から、生徒が納得して入学できるようにすることが大切である。総合学科のシステムであり、総合学科の魅力や学びなおしの魅力を発信することが求められている。厳しすぎるのはよくないがルール of 趣旨をきちっと説明することが重要である。

質疑応答・意見

「HP は基本的にはパソコン仕様でスマホ仕様とは違う。情報発信がスマホ仕様になると情報の流れがさらに広がるだろう。」(協議委員)

「内容の毎日の更新が必要。流れていくことが必要だと考えている。」(事務局)

「小・中では情報がリアルタイムで上がってくる。小学校からパソコンがさかんに使われており、子どもたちの情報交換のツールになっている。」(協議委員)

「HP の作製は教員だけではなかなか対応できないので専門家がいればありがたい。」(協議委員)

「中学校では校長が HP の記事を更新している。」(協議委員)

「保護者は結構、スマホを見ているので情報が遅れると不満を持つ人が多い。箕面市内の学校の HP やスマホ情報をほぼ全て見ている人もいる。」(協議委員)

「SNS による口コミはすごい。あなどれない。茨木でビジネス交流会を発信すると一週間で人の輪が広がる。一連の流れがストックされ実になる。「みのひが」の良さをどんどん発信していかないとだめだ。」(協議委員)

「授業がわかりやすいと肯定している保護者は CS で 39.1%、ES で 64.7%とかなり差があるが、ES と CS で教えている人が異なるのか。」→「CS も ES も同じ教員である。」(事務局)

「教職員アンケートの項目で「読書指導」が気になる。箕面の駅前にブックカフェがあり、読書は結構はやっているが。」→「本校の図書館では自習はいるが本を読みに来る生徒は少ない」(事務局)

「活字を読める子どもを育てたい。高校生の段階で何と力をつけてやりたい。」(校長)

「朝読はしないのか」→「生徒全員分の本をどのように調達するかも課題である。」(校長)

「生徒の読解力が落ちている。本の面白さをわかっていただくことが大事。読解力があれば国語・数学の成績も上がる。」(協議委員)

「大学でも図書館の活用が少ない。図書関連のいろんなイベントをしないと学生はほとんど来館しない。学生に図書館で本を読ませるのではなく本を捜すことをさせている。スマホで調べたことはすぐ忘れる。」（協議委員）

「中学校の国語科ではビブリオバトルを取り入れている。」（協議委員）

「たまに本を紹介すると図書館に行く生徒も出てくるのできっかけが大事」（事務局）

3. 平成29年度 学校経営計画及び学校評価（校長）

校長から計画の説明。

質疑応答・意見

「SSWの予算は来年度もつくか。」→「エンパワとごく一部の学校には配当される。」（校長）

「個人的にSJプランに興味がある。私の経験で、ある新設高校に入学した生徒が3年後、医大に合格し、そのとたんに評判が上がった。期待を持たせる学校は大事。SJがうまくいくと何らかの求心力になる。」（協議委員）

「出口がしっかりとしているところは入口に集まる生徒も増える。」（協議委員）

「たしかに出口は評価の対象になると思う。」（校長）

「SNSを活用すると変化がみえてくる。プロセス（進行状況や経過）の発信が大切。また、体育大会だけでなくさまざまなイベントを実施することによって学校は楽しくなる。」（協議委員）